

# Red Hat Enterprise Linux インフラストラクチャのアップグレード

準備こそが成功の鍵

---

Red Hat Enterprise Linux の  
ライフサイクル:  
[https://access.redhat.com/  
support/policy/updates/errata](https://access.redhat.com/support/policy/updates/errata)

## 未知の問題を特定

Red Hat® Enterprise Linux® の最新バージョンと互換性があるアプリケーションやハードウェアを判別するのは難しい場合があります。そこで Red Hat は、お客様の組織の環境に特有の潜在的な課題を特定し、修復を提案する、**アップグレード前分析レポート**を作成しました。このレポートを実行することで、アプリケーションの互換性を判別し、起こり得る問題を修復できます。

未知の問題と修復できる問題の領域を特定すれば、どのバージョンの Red Hat Enterprise Linux が組織のニーズに最も適しているかを検討できます。

## サブスクリプションによって、あらゆるバージョンの柔軟かつ自由なデプロイが可能に

Red Hat Enterprise Linux は、アプリケーションをデプロイしてどこでも運用できる自由と安定性をもたらします。エンタープライズ・ユースケース向けの Linux ディストリビューションとして、組み込みのセキュリティ機能と管理機能を提供するため、デプロイ先がベアメタルハードウェア、パブリッククラウド、プライベートクラウド、ハイブリッドクラウド、あるいはファーエッジでも、組織は安定した高性能プラットフォーム上で重要なワークロードを自信を持って実行できます。

以前、アップグレードには組織によるリフトアンドシフト作業が必要だったため、大幅な中断を伴う可能性がありました。Red Hat Enterprise Linux では、サポートされるアップグレード管理ツールとして Leapp が一緒に提供されており、Red Hat Enterprise Linux の次のメジャーバージョンにアップグレードするための自動化可能な単一パスを提供します。

## サポートによるイノベーション

ソフトウェアベンダーとハードウェアベンダーからのサポートを通じて強化されるイノベーションを重視する、動きの速い企業について考えてみましょう。この企業は、最新の拡張機能、更新されたアプリケーション、開発ランタイムを理由にアップグレードに興味を持っています。

アップグレードをすると、最新の拡張機能、修正、パッチが適用されたサポート製品を利用して、ビジネス継続性を維持できます。

さらに、パフォーマンスの向上により総所有コスト (TCO) が削減される一方、技術の進歩によって企業は新しい機能を使用して競争力を高めることができます。

## 長いライフサイクルと安定性

Red Hat Enterprise Linux の長寿命と安定性を高く評価する企業もあります。このような企業ではインプレース・アップグレードにより、継続的なバグ修正とセキュリティエラーのサポートを備えた新しいバージョンにシステムの基盤を切り替えることができます。

Red Hat は、詳細な事前評価レポートなどのツールによって、互換性や計画に関連するリスクを緩和できるよう支援します。Red Hat 認定のハードウェア、ソフトウェア、クラウドプロバイダーのカタログを使用することで、アップグレード計画に環境の検証を含めることができます。

## 予測可能なリリース頻度

Red Hat Enterprise Linux は予測可能な 3 年間のリリースサイクルで提供されており、サブスクリプションは Red Hat Enterprise Linux の現在サポートされているすべてのバージョンで利用できます。新しいバージョンが利用可能になると最新のテクノロジーにアクセスできるため、これは動きの速い企業にとってメリットになります。Red Hat Enterprise Linux のメジャーバージョンのサポート期間は 10 年間で、2 つのサポートフェーズに分かれています。

最初のフェーズは一般提供 (GA) から 5 年間で、フルサポートと呼ばれます。Red Hat は、お客様、パートナー、独立系ソフトウェアベンダー (ISV)、独立系ハードウェアベンダー (IHV)、クラウドサービスプロバイダー、Red Hat Enterprise Linux のエコシステムにとってライフサイクル計画が重要であることを理解しています。新機能の追加、更新されたアプリケーションと開発言語のリリース、新しいハードウェアのサポート、問題やバグの修正が行われます。このフェーズで、動きの速い企業は最新の状態を保つことから価値を実現します。

第 2 のフェーズはメンテナンスサポートと呼ばれ、5 年間続きます。リリースサイクルのこのフェーズを利用する企業は、Red Hat が定義する「重大および重要」なセキュリティエラーと厳選されたバグ修正のアップデートが提供され次第、入手することができます。このフェーズでは新機能は利用できず、新しいバージョンのアプリケーションや言語フレームワークも利用できません。

## 延長サポートオプション

Red Hat Enterprise Linux のライフサイクルは 10 年間ですが、サポート変更と、Red Hat Enterprise Linux Extended Update Support Add-On (EUS) のような Add-On サブスクリプションは、GA の日付から最大 2 年間、Red Hat Enterprise Linux の特定のマイナーリリースのサポートに利用可能であることに留意してください。Red Hat Enterprise Linux のメジャーバージョンの限定サポートは、Red Hat Enterprise Linux Extended Life Cycle Support Add-On (ELS) という Add-On サブスクリプションを通じて、メンテナンス終了日から 2 年間利用できます。EUS および ELS サブスクリプションのサポートには制限があることを知っておくことが重要です。

マイナーリリースのリリース頻度は、フルサポートフェーズを通じて 6 カ月であり、企業はそれに応じて計画を立てることができます。このため、企業はアプリケーション、言語ランタイム、データベースなどのアプリケーション・ストリームとともに配布されるソフトウェアのアップデートや新機能をリリースするプロジェクトを効果的に計画できます。

動きの速い企業は、新しいアプリケーションやランタイムのオプションを提供する 6 カ月のリリース頻度を活用できます。このような企業は、新規プロジェクトを計画する際にアップストリームのライフサイクル・オプションを利用し、3 年の Red Hat Enterprise Linux リリース頻度に合わせて新しい機能やソリューションをリリースする計画を立てることができます。CentOS Stream コミュニティプロジェクトや Red Hat Enterprise Linux ベータリリースを使用してプロトタイプを作成を開始することも可能であり、Red Hat Enterprise Linux のリリース更新がいつ行われるかだけでなく、そのリリースの内容についても一般的なアイデアを得ることができます。

ライフサイクルが長いことを懸念するお客様にとっては、Red Hat Enterprise Linux のリリース頻度が予測可能であり、メジャーリリースとマイナーリリースの時期を把握できることが役立ちます。すでに確立されているアプリケーションやハードウェアの更新の手順に、Red Hat Enterprise Linux リリースを含めることができます。Red Hat Enterprise Linux のアップデートがいつ利用可能になっても驚くことはないでしょう。

---

Red Hat Enterprise Linux の  
終了済みライフサイクルの日付：  
[https://access.redhat.com/  
articles/4038291](https://access.redhat.com/articles/4038291)

## 将来への計画

メンテナンスがいつ終了するのかを知っていれば、それに応じて計画を立て、新しい機能を導入することができます。企業は **Leapp** のようなテクノロジーを使用して、サービスの中断を最小限に抑えながらシステムをアップグレードすることができます。

メンテナンスサポートフェーズが残り 2 年の時点でアップグレードと移行の計画を開始し、Red Hat Enterprise Linux リリースで予定されているメンテナンス終了の前に重要なアプリケーションを移行できるよう十分な時間を確保することをお勧めします。Red Hat Enterprise Linux バージョンのメンテナンスサポート終了日までにアプリケーションとワークロードを移行できない場合は、ELS Add-On サブスクリプションを利用するのも選択肢の 1 つです。



## Red Hat について

Red Hat は、[受賞歴のある](#)サポート、トレーニング、コンサルティングサービスをお客様に提供し、複数の環境にわたる標準化、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、複雑な環境の統合、自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。

<b>アジア太平洋</b> +65 6490 4200 apac@redhat.com	<b>インドネシア</b> 001 803 440 224	<b>マレーシア</b> 1800 812 678	<b>中国</b> 800 810 2100
<b>オーストラリア</b> 1800 733 428	<b>日本</b> 03 4590 7472	<b>ニュージーランド</b> 0800 450 503	<b>香港</b> 800 901 222
<b>インド</b> +91 22 3987 8888	<b>韓国</b> 080 708 0880	<b>シンガポール</b> 800 448 1430	<b>台湾</b> 0800 666 052

[f fb.com/RedHatJapan](https://fb.com/RedHatJapan)  
[t twitter.com/RedHatJapan](https://twitter.com/RedHatJapan)  
[in linkedin.com/company/red-hat](https://linkedin.com/company/red-hat)

[jp.redhat.com](https://jp.redhat.com)  
 #F32042\_0922

Copyright © 2022 Red Hat, Inc. Red Hat、および Red Hat ロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. またはその子会社の商標または登録商標です。Linux® は、米国およびその他の国における Linus Torvalds 氏の登録商標です。